

平成17年度事業報告

(概要)

平成16年10月第3代会長に就任した石原伸晃新会長のご指導の下、本年度は各理事、委員が従来に増して積極的に活動に取り組んでまいりました。

お蔭様で、新たに賛助会員として、「株式会社ライフサイエンス研究所」からご支援を頂けるようになり、「アサヒ飲料株式会社」にも賛助会員、大会協賛を頂けることとなりました。

全国大会、東日本地区大会には「アビームコンサルティング株式会社」から特別協賛企業としてご支援を頂くことも出来、機関紙「ユースセーリング」広告についても、第一製薬株式会社と共に継続的にご支援を頂けるようになりました。

本年度の競技会事業では、下記の東西地区大会、全国大会を開催しました。

1) 第25回日本少年少女オープンヨット大会 (東日本地区大会)

平成17年5月3日～5日 山梨県山中湖村

2) 第25回日本少年少女オープンヨット大会 (西日本地区大会)

平成17年5月3日～5日 熊本県宇土市

3) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2005

平成17年8月5日～8月7日 愛知県蒲郡市

第25回日本少年少女オープンヨット大会 (東日本、西日本地区大会) には、本年度もスポーツ振興くじの助成を受けることが出来なかったため、それぞれ山梨県や熊本県の県連や地元ジュニアヨットクラブの皆さんに事前準備して頂き、当連盟役員に加え参加クラブの指導者、保護者の皆さんにも運営に参加協力して頂き、費用を極力節減しながらも、充実した大会を行うことができました。

全国大会は、「愛・地球博記念国際セーリングシリーズ」の一環として、スポーツ振興基金助成金に加え、国際セーリングシリーズの特別補助金の提供を受け、国際交流の規模を拡大し、例年の3ヶ国、韓国、ニュージーランド、ロシアに加え、イタリア、ポーランド、ミャンマー等合計6ヶ国より海外チームを招聘して、愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバーにおいて「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2005」として開催しました。

参加選手も、全国各地からの選手162名に外国チームの29名を加え総勢191名と近年になく多くの参加を頂いた大会となりました。クラブ対抗も接近した好勝負となり、国際交流も含め、ジュニアセーラーの日頃の成果や指導者の情報交換の場として有意義な大会になったと考えています。又、開会式後の選手、指導者、保護者、運営役員の国際交流会には石原会長も出席され楽しいパーティーとなりました。

「ユースセーリング」の発行につきましては、計画通り年2回の発行が出来る体制になりました。

今後の当連盟の活動につきましては、既存の事業と共に、ジュニアヨットの普及や加盟クラブの支援に繋がるような新規事業に取り組んでいく所存ですので、当連盟の発展のため引き続きご理解とご協力をお願い致します。

(部門別詳細)

1. 総務関係部門

(1) 会員開発と加盟促進 (普及渉外委員会／財務委員会)

(イ)新たに1クラブが加盟、1クラブが退会となり、現在加盟クラブの代表者である正会員は77名となっています。(休会17クラブ)(平成18年3月31日現在)

(加盟クラブ) 宮古ジュニアヨットクラブ

(再開クラブ) 宮津ジュニアヨットクラブ

(退会クラブ) 奈良YMCAマリンクラブ

(休会クラブ) 加茂ヨットスポーツ少年団、温海町立温海中学校ヨット部、

温海町ヨットスポーツ少年団が新たに休会。

(ロ)クラブの代表者以外の正会員は、理事14名、監事2名、委員1名、その他3名の20名となり、上記加盟クラブ代表者の正会員と合わせて正会員は総計97名となっています。(平成18年3月31日現在)

(ハ) 賛助会員については、ここ数年の厳しい経済環境によって新規募集は極めて難しく、昨年度は1人も会員が無い状況でしたが、今年度、「株式会社ライフサイエンス研究所」に新たに賛助会員となって頂くことが出来、更に「アサヒ飲料株式会社」にもご協力頂けることとなりました。

(2) 地方水域担当理事の活動（総務委員会、普及渉外委員会）

地方水域担当理事（東：小松勇一理事、阪田守昭理事、西：内藤武夫理事、陶山哲夫理事）は、引き続き定例理事会、総会への出席及び全国大会、東西日本地区大会等の運営の参画を中心として活動しています。

2. 指導員養成部門（指導育成委員会）

(1) 本年度は、新たな公認指導員6名、準指導員2名を認定し、又、更新した公認指導員34名、準指導員2名にて、平成18年3月31日現在の公認指導員は174名、準指導員は16名が登録されています。

(2) 地方水域指導者・保護者研修会

平成17年6月4日～5日に新潟市関屋浜で開催された北信越ジュニアヨットクラブ連盟大会の機会を捉えて、大会初日6月4日の夕方、午後5時から2時間、初めての試みとして、安井常務理事（指導育成委員長）を講師として、指導者・保護者研修会を開催しました。（北信越水域参加者34名）

(3) 指導者研修会を2月の通常総会時に開催しました。

3. 普及と広報活動部門

(1) 普及・振興活動（普及渉外委員会）

普及事業としての「CHANCE OF SAILING」（ヨット体験教室）ですが、開催を努力しましたが、応募もなく本年度も開催することが出来ませんでした。反省と共に今後どのような普及活動をするかが課題となっていました。地方水域大会として普及大会を検討しています。

(2) 各都道府県、関係市町村への広報、陳情活動（広報委員会／普及渉外委員会）

本年度の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2005」については、愛知県、

愛知県教育委員会、蒲郡市等に対し、当連盟の活動への理解をお願いし、愛知県セーリング連盟のご支援も頂き、蒲郡市海陽ヨットハーバーにおいて開催することが出来ました。

(2) 新艇開発事業（新艇開発委員会、普及渉外委員会）

昨年度の事業として、日本財団の助成金を受けて開発したアルミニウム製新艇種 ALL Y T（アリート）の試作艇 2 艇を東日本地区大会、全国大会会場に展示、試走して貰い評価を得ました。

(4) B & G 財団との協調活動（普及渉外委員会）

B & G 財団に対し、その傘下の海洋クラブの東西日本地区大会、全国大会参加の呼びかけをして頂くように継続的に働きかけながら、協力関係の強化に努めました。

(5) 機関誌等の発行（広報委員会）

昨年 1 2 月初めにユースセーリング 7 1 号を発行し、本年 3 月に 7 2 号を発行しました。

連盟ホームページはリニューアルで充実化を図り、連盟本部からの情報提供や会員からのイベント報告などを掲載出来るようになりましたが、まだ更新等維持管理が不十分なので、一層の努力をします。

(6) 競技会の開催（競技委員会）

- (イ) 第 2 5 回日本少年少女オープンヨット大会(東日本地区大会)を、5 月 3 ~ 5 日に山梨県山中湖村山中湖ヨットハーバーを会場に、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、山梨県、山中湖村、(財)日本セーリング連盟その他のご後援と山中湖中学校ヨット部と先生方のご協力を得て、山中湖ジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。開会式には石原会長も出席されました。

参加クラブ 2 4 チーム、参加選手 1 1 7 名

- (ロ) 第 2 5 回日本少年少女オープンヨット大会(西日本地区大会)を、5 月 3 ~ 5 日に熊本県宇土市宇土マリーナにおいて、文部科学大臣賞と国土交通大臣賞を頂き、熊本県、宇土市、(財)日本セーリング連盟等のご後援を得て、熊本ジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 17チーム、参加選手 96名

- (ハ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2005を8月5日～7日の期間、愛知県蒲郡市海陽ヨットハーバーとその沖合を会場に、文部科学省、国土交通省、愛・地球博記念国際セーリングシリーズ推進協議会、愛知県、(財)日本セーリング連盟等多くのご後援を頂き、文部科学大臣杯、国土交通大臣杯の他に、招待外国チーム優秀選手への特別協賛賞アビームカップを頂いて、地元蒲郡市及び愛知県セーリング連盟ジュニアヨットクラブとの共同主催で開催しました。

参加クラブ 46チーム(イタリア、ポーランド、ミャンマー、韓国、ロシア、ニュージーランドを含む)、参加選手 191名

(7) 諸外国との親善交流 (普及渉外委員会)

- (イ) 8月5日～7日、愛知県蒲郡市で開催の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2005に、イタリア、ポーランド、ミャンマー、韓国、ロシア、ニュージーランドの6ヶ国から合計29名の選手と10名の指導者を招待しました。
- (ロ) 9月4日、東京都若洲ヨット訓練所で行われた第15回ジュニアヨット国際親善レガッタを後援しました。
- (ハ) 10月29日～30日、韓国ソウル市で行われた東京都・ソウル市ヨット交歓競技大会ジュニアヨットレースを後援しました。

(8) ジュニアヨットクラブの安全対策事業 (指導育成委員会／普及渉外委員会)

平成18年2月18日開催の指導者研修会の機会に、安全関係も講習しました。

以上